

製造・販売元
 **稲垣商事株式会社**
<http://www.inagakishoji.co.jp>

本社 〒101-0024 東京都千代田区神田和泉町1-1
TEL.03 (3863) 0351 (代) FAX.03 (3851) 1340

東京東部営業所 〒124-0012 東京都葛飾区立石5-7-23
TEL.03 (3697) 8221 (代) FAX.03 (3693) 3021

東京西部営業所 〒202-0021 東京都西東京市東伏見6-9-11
TEL.042 (465) 6666 (代) FAX.042 (461) 6653

神奈川営業所 〒224-0043 神奈川県横浜市都筑区折本町375
TEL.045 (470) 7821 (代) FAX.045 (470) 7685

千葉営業所 〒261-0002 千葉県千葉市美浜区新港76
TEL.043 (242) 1331 (代) FAX.043 (242) 5162

埼玉営業所 〒331-0811 埼玉県さいたま市北区吉野町1-383
TEL.048 (664) 2291 (代) FAX.048 (664) 2290

茨城営業所 〒315-0052 茨城県かすみがうら市下稻吉2648
TEL.0299 (59) 5588 (代) FAX.0299 (59) 5820

栃木営業所 〒329-0502 栃木県下野市下古山2959
TEL.0285 (53) 6200 (代) FAX.0285 (53) 5981

群馬営業所 〒379-2233 群馬県伊勢崎市平井町1304
TEL.0270 (63) 4611 (代) FAX.0270 (63) 4622

東京加工工場 〒124-0012 東京都葛飾区立石5-7-23
TEL.03 (3697) 8221 (代) FAX.03 (3693) 3021

千葉加工工場 〒261-0002 千葉県千葉市美浜区新港76
TEL.043 (242) 1331 (代) FAX.043 (242) 5162

神奈川加工工場 〒224-0043 神奈川県横浜市都筑区折本町375
TEL.045 (470) 7821 (代) FAX.045 (470) 7685

群馬加工工場 〒379-2233 群馬県伊勢崎市平井町1304
TEL.0270 (63) 4611 (代) FAX.0270 (63) 4622

パルディー セルディー フアントン

施工マニュアル

 **INAGAKI**

安全作業と施工上の注意

再読し必ずお守りください。

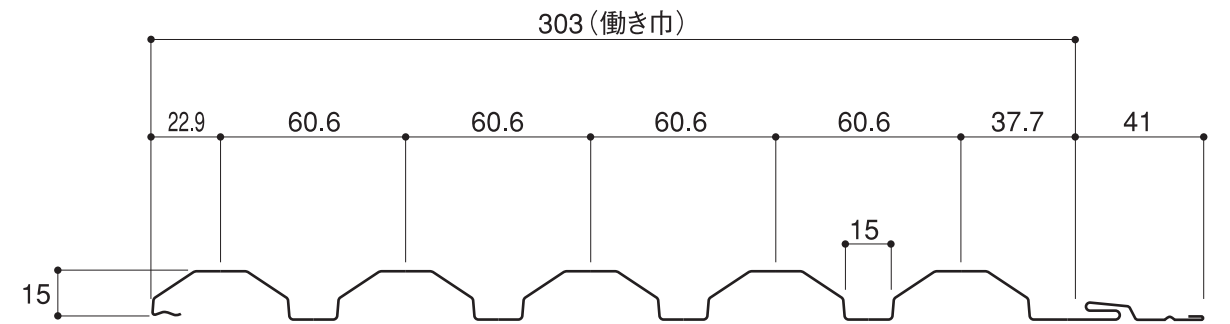
- 高所作業(2メートル以上)では、墜落災害防止のため安全帯、命綱の着用が法律で定められています。施工現場では、正しい服装と保護具を必ず装着してください。
- 立地条件や気象条件については、必ず現地の状況を確認して施工してください。
強風、雨天、雷雨、積雪時は作業を中止してください。
狭い場所や高所作業では、外壁材が電線に触れないよう注意してください。
- 切り口やバリによる怪我を防止するため、必ず手袋で防護してください。
- 外壁材や部材は、風で吹き飛ばされないように適切な養生を施してください。
- 作業中に出る切り粉は、さびの原因になりますので必ず除去してください。
- 塗装面にキズがついた場合は、補修塗料で補修してください。
- 作業の開始と終了後は、外壁面を清掃し、梱包材や残材は産業廃棄物として処分してください。

C O N T E N T S

施工上の注意点 P1
パルディー・セルディー・ファントン断面図 P2
役物 P3
横張り(パルディー・セルディー) P4-9
縦張り(パルディー・セルディー・ファントン) P10-15
改修工法(ICワイルキャッチフレーム工法) P16-20
防火構造 P21
耐風圧性能試験 P22

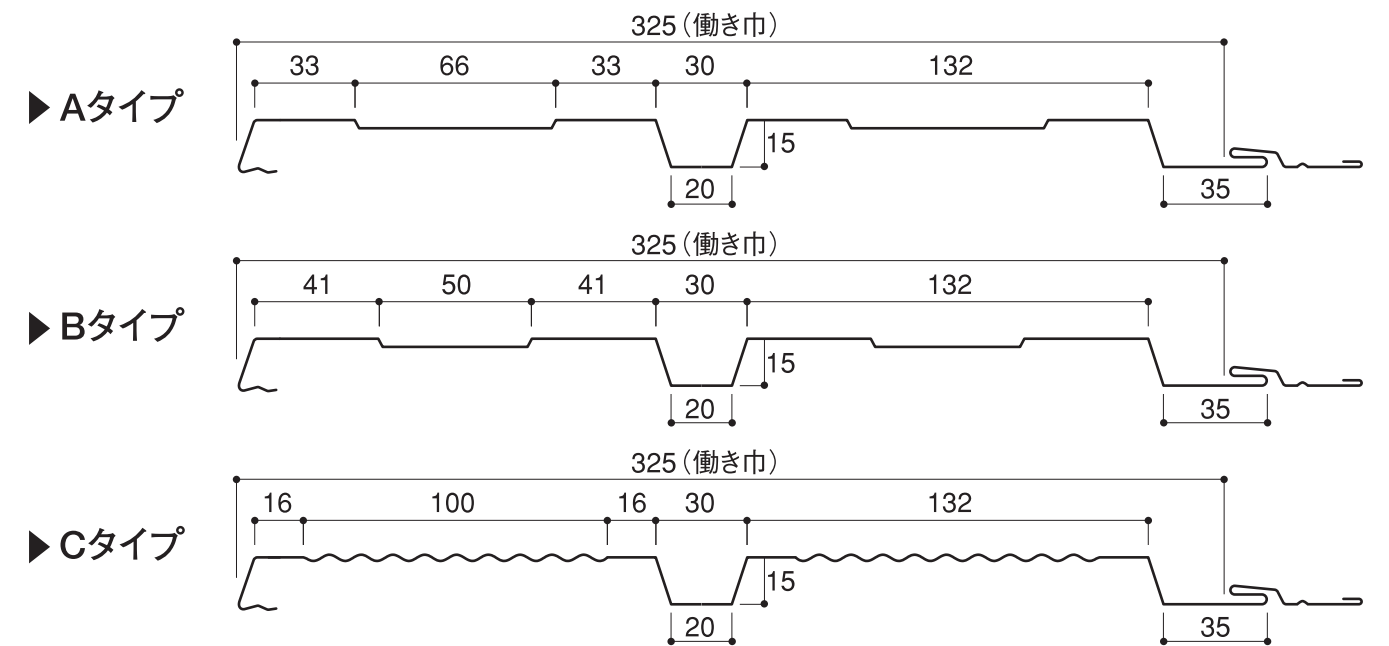
■パルディー

働き幅:303mm 板厚:0.40mm 重さ:1.525kg/m



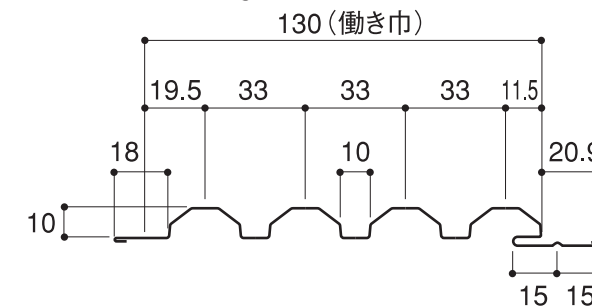
■セルディー

働き幅:325mm 板厚:0.40mm 重さ:1.525kg/m



■ファントン

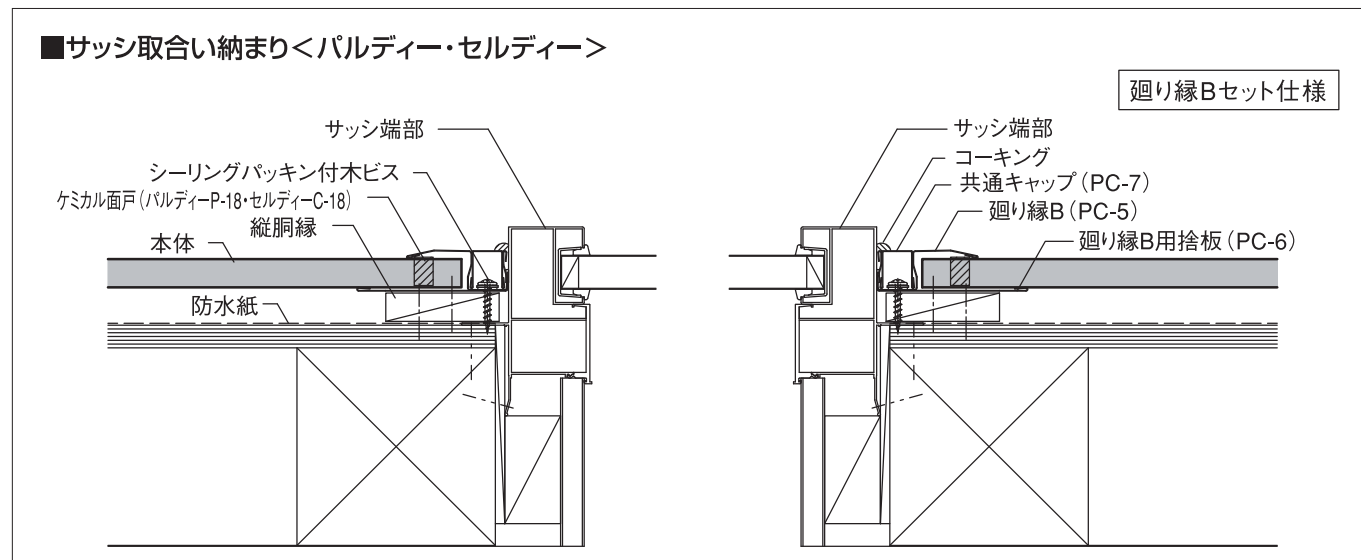
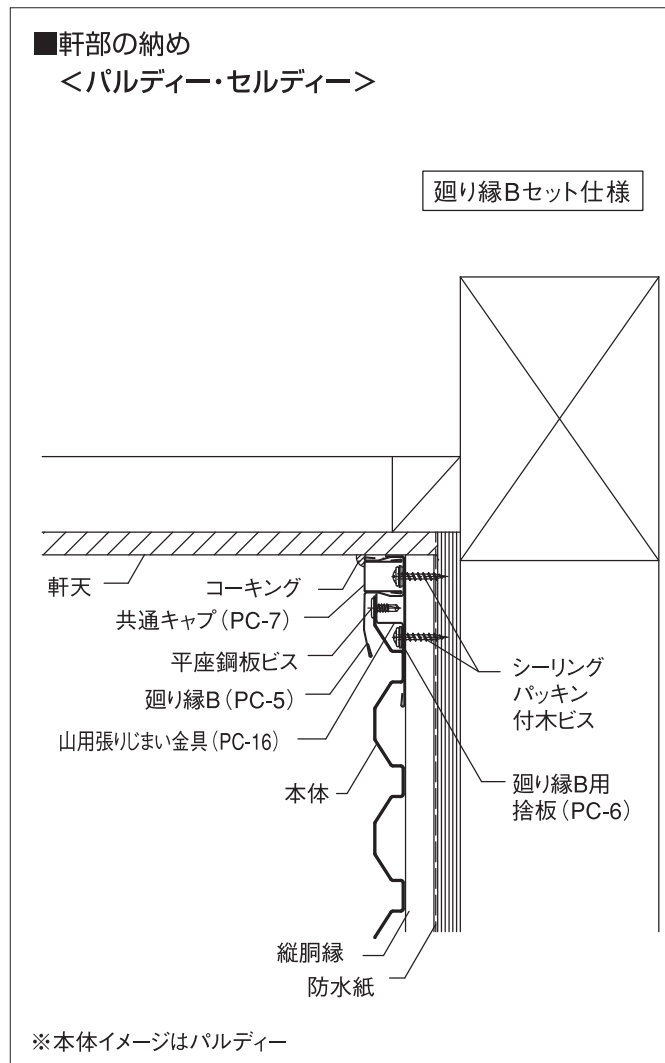
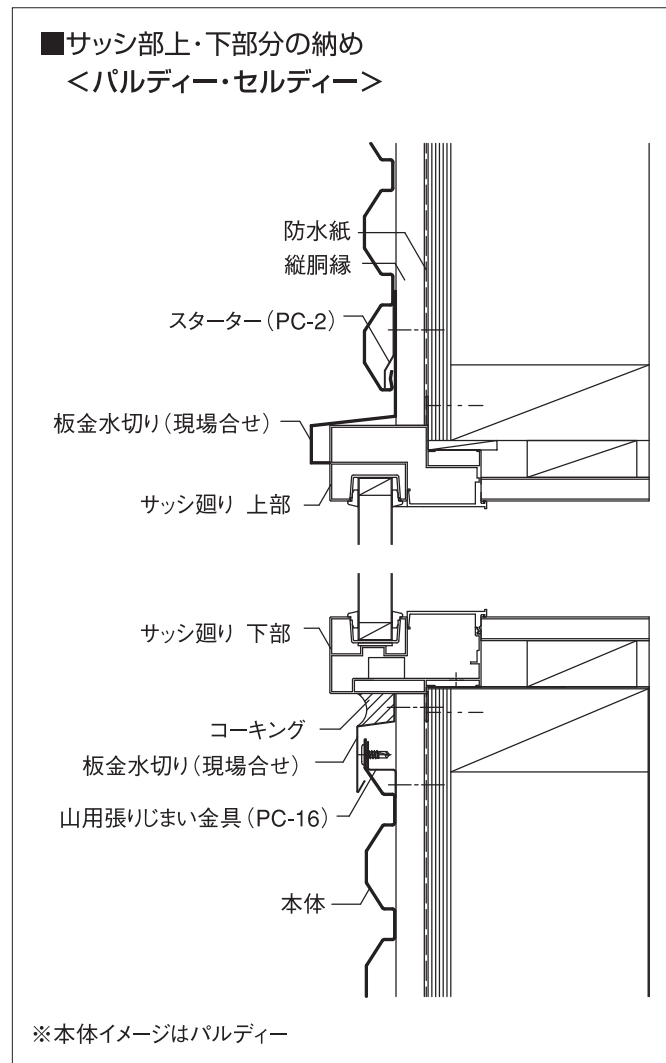
働き幅:130mm 板厚:0.40mm 重さ:0.763kg/m



6. 軒部・サッシ廻り部分の納まり

■軒部の納まりは、廻り縁Bを使用します。

手順は、廻り縁B用捨板→本体施工→廻り縁カバー→キャップ

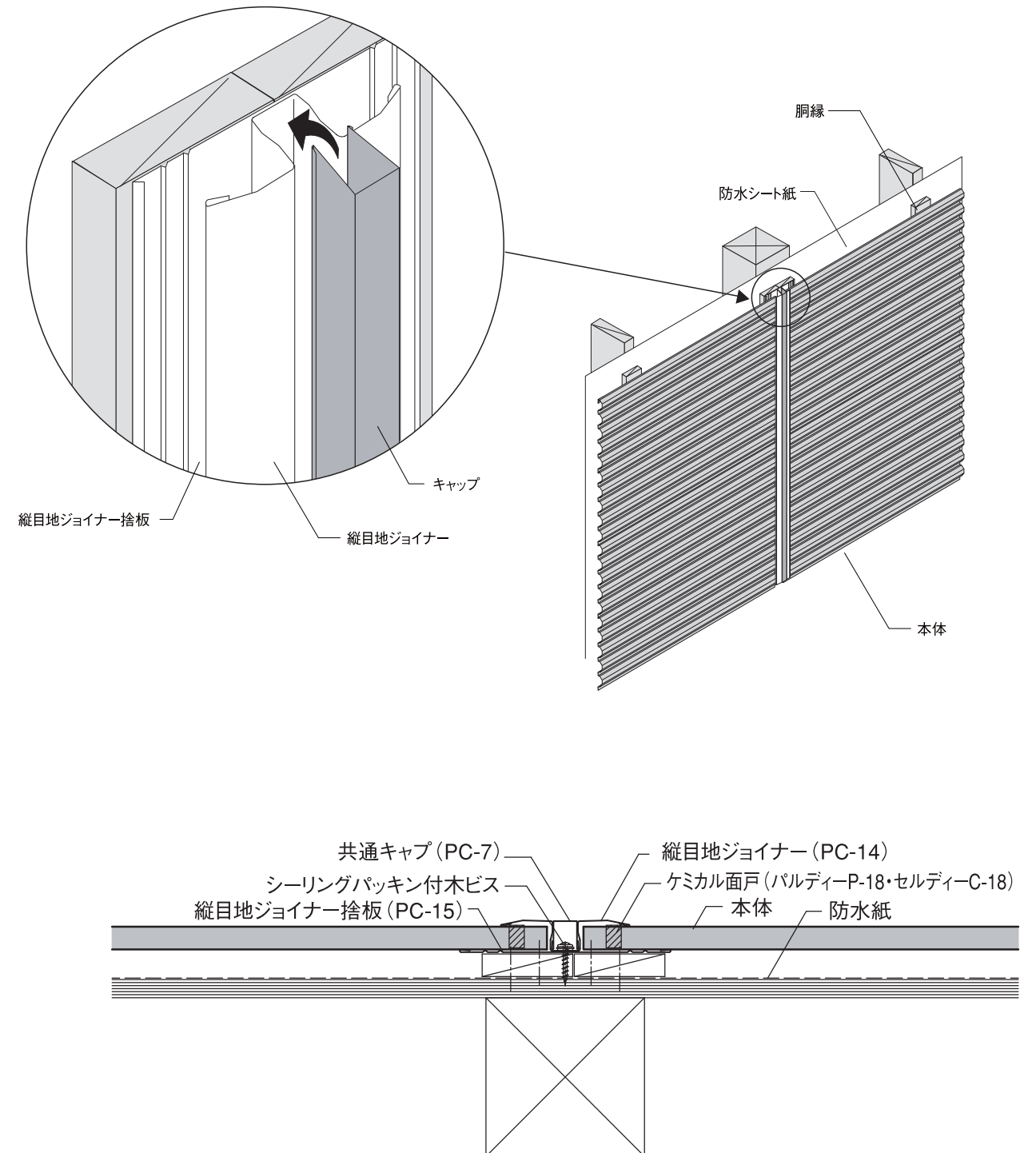


■窓回り (開口部回りや換気口回りを含め) の納めには、雨仕舞に万全の注意が必要です。予め防水テープ (両面接着) を貼った後に防水紙を張ってください。またサッシと部材の隙間等には、必ずシーリングしてください。

7. 縦目地ジョイナー取付け

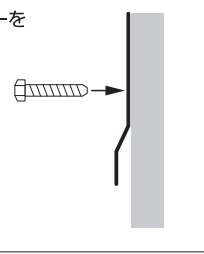
■縦目地ジョイナーの施工は以下の手順に従ってください。

土台水切→防水紙→縦目地ジョイナー捨板→スターター→本体の施工→縦目地ジョイナーカバー・キャップ



8. 本体の施工

葺き始めはスターターを取り付けます。
(パルディー・セルディー共通)



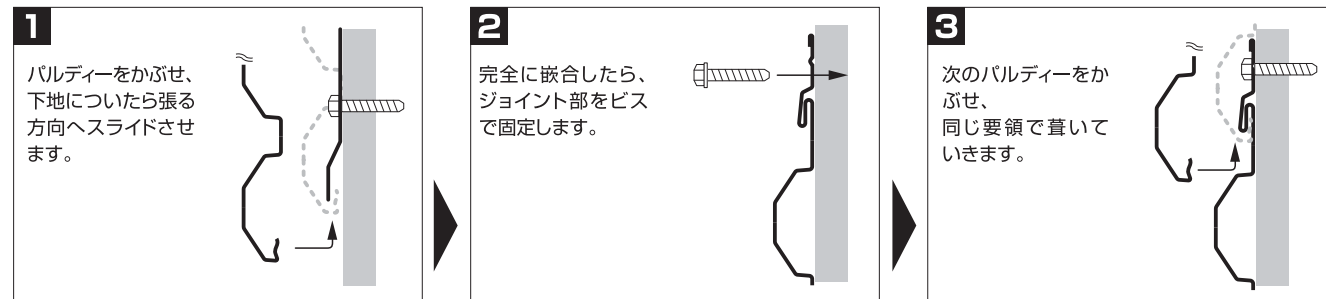
■ 本体の施工は墨出しにしたがって張っていきます。

各役物の捨板部材を取付け後、スターターを取付けます。
スターターは水準器などを用い、水平を確認してください。

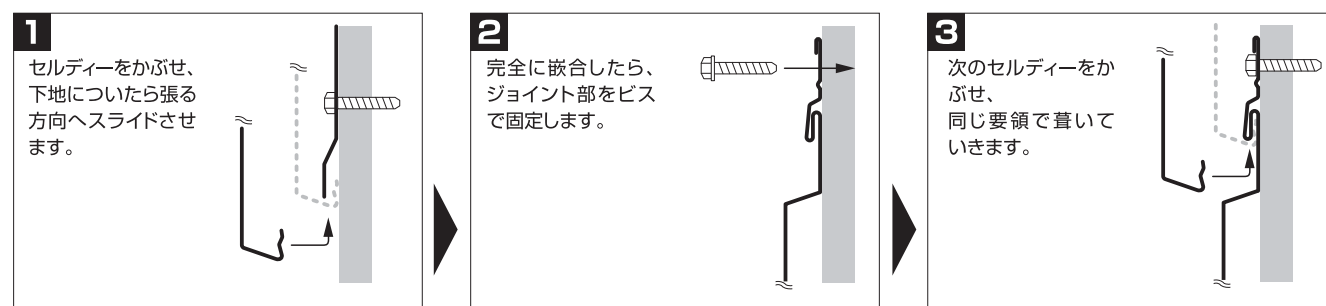
- 1 本体をスターターに嵌合します。
- 2 本体が完全に嵌合したら、ジョイント部をビスで固定します。
- 3 2段目以降は本体の勘合部に引掛けビス留めしていきます。

※ 本体左右端部には、必ずケミカル面戸を取付けてください。

● パルディー本体施工手順

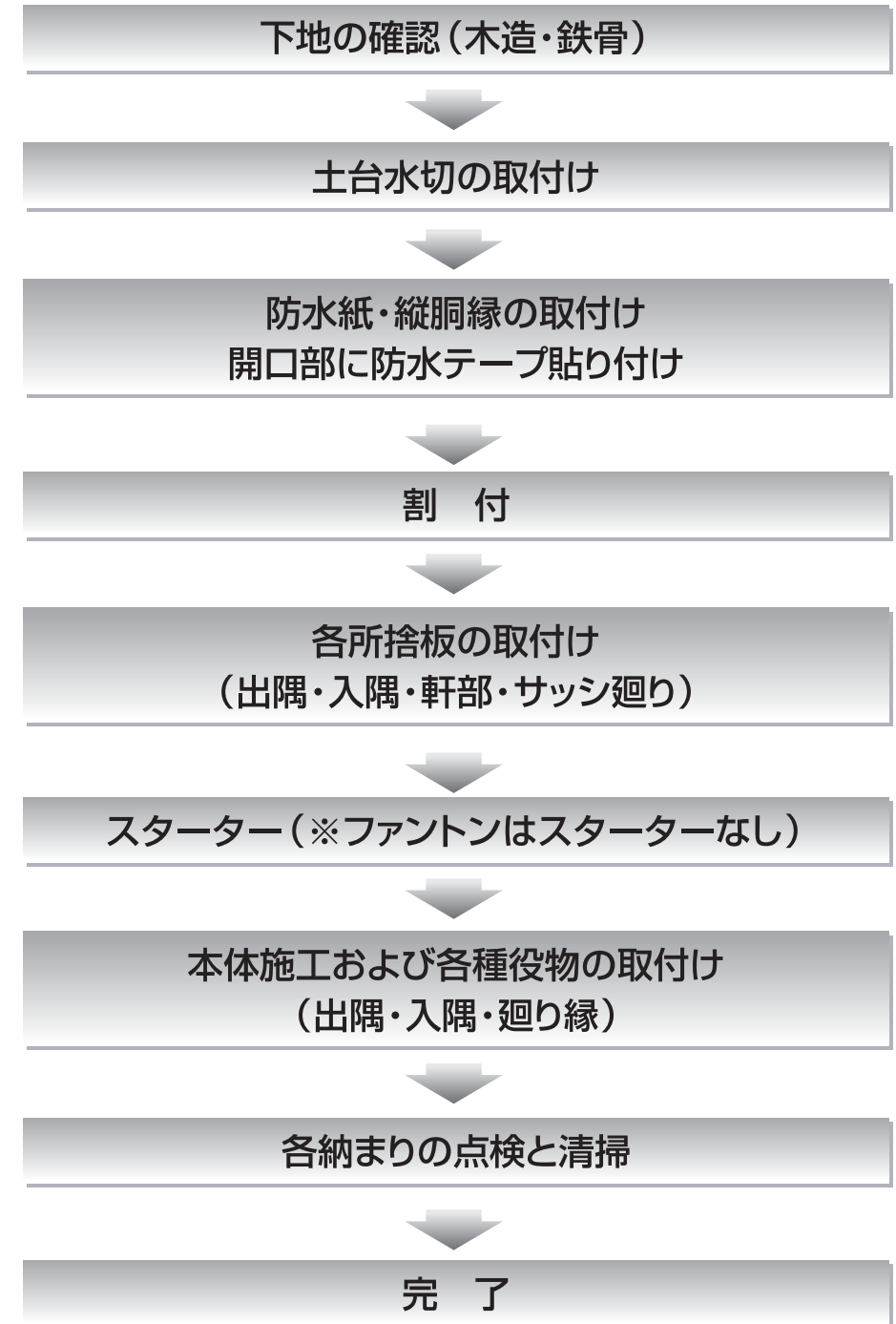
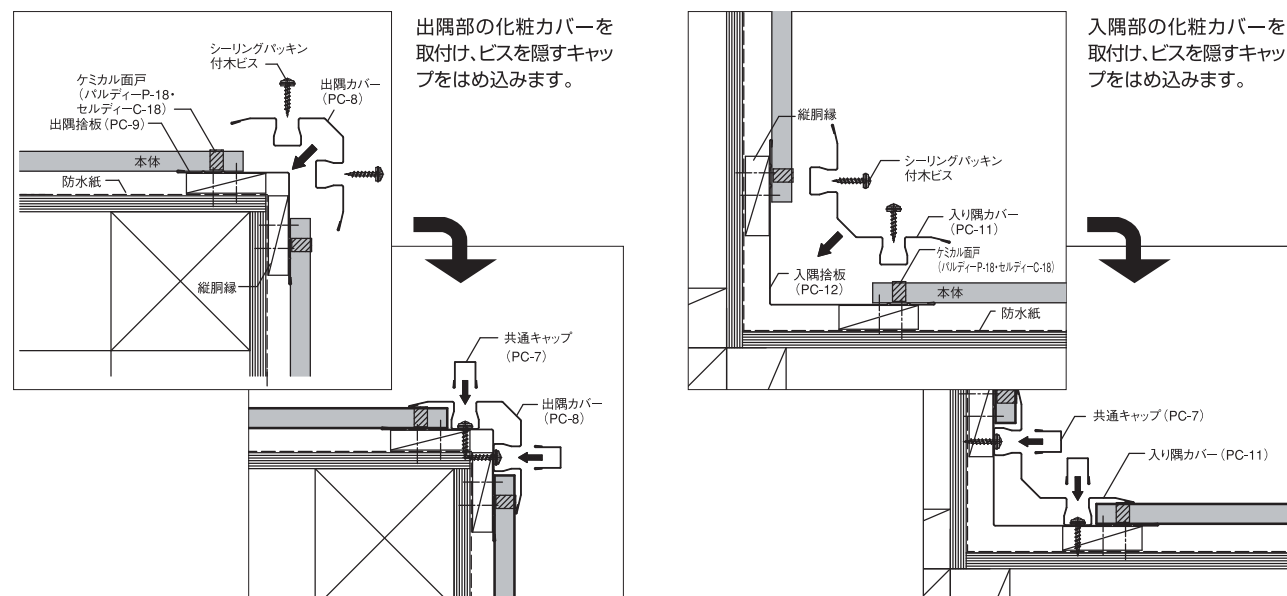


● セルディー本体施工手順



9. 役物部の化粧カバーキャップの取付け

■ 本体を取付け後、出隅・入隅・廻り縁Bの化粧カバーとキャップを取付けします。



※ 注意: 防火・耐火構造認定品等でせつこうボードが下地に必要な場合は、防水紙の使用前に施工してください。

縦張り工法 (パルディー・セルディー・ファントン)

1. 下地の確認 (木造・鉄骨)

2. 土台水切の取付け

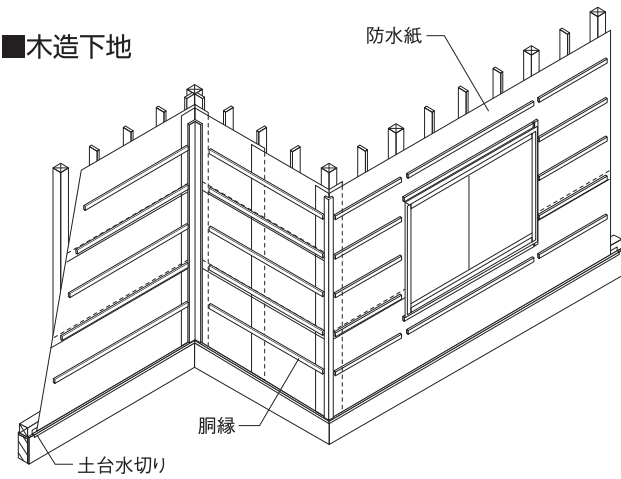
■土台水切の取付けは、水平を確認してから取付けてください。

3. 防水紙・縦胴縁の取付け

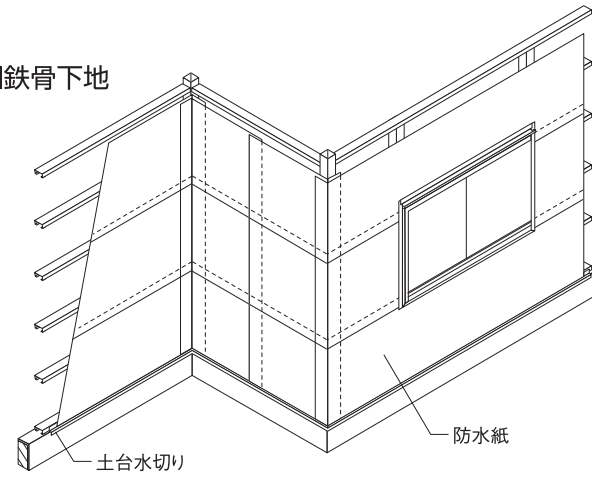
■防水紙 (アスファルトフェルト430品以上のものや透湿防水シート) を使用し、重ねしろは鉛直方向で90mm以上、水平方向で180mm以上としてください。窓回り (開口部回りや換気口回りを含む) は、防水テープで留めつけてください。

■木造下地の胴縁や鉄骨下地は、現場の構造・環境に応じた適切な間隔で施工してください。

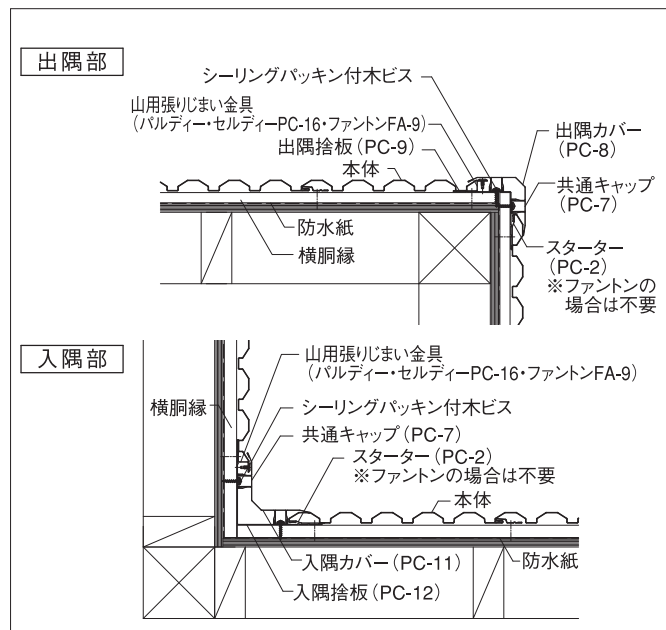
■木造下地



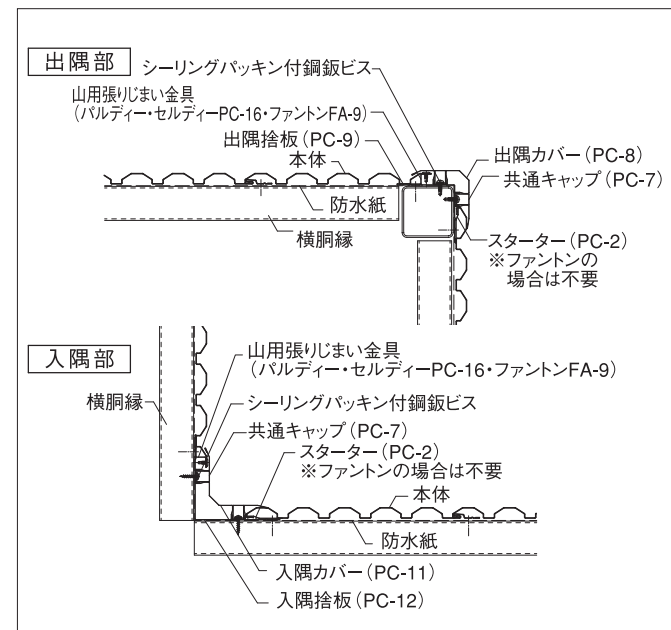
■鉄骨下地



■木造下地納まり

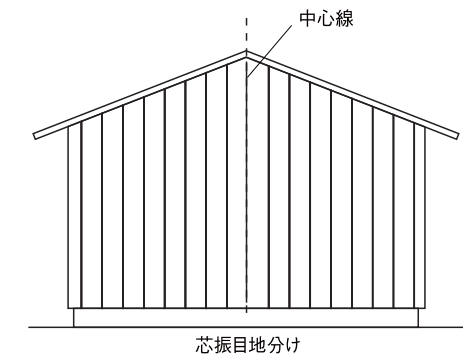
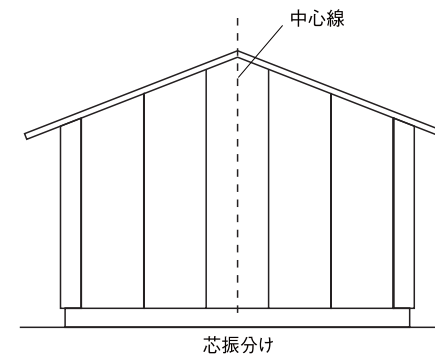


■鉄骨下地納まり



4. 割付 (標準的な割付例)

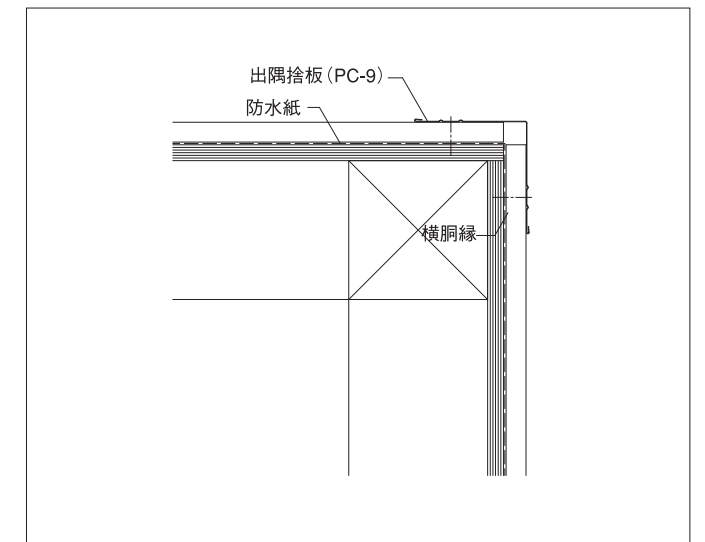
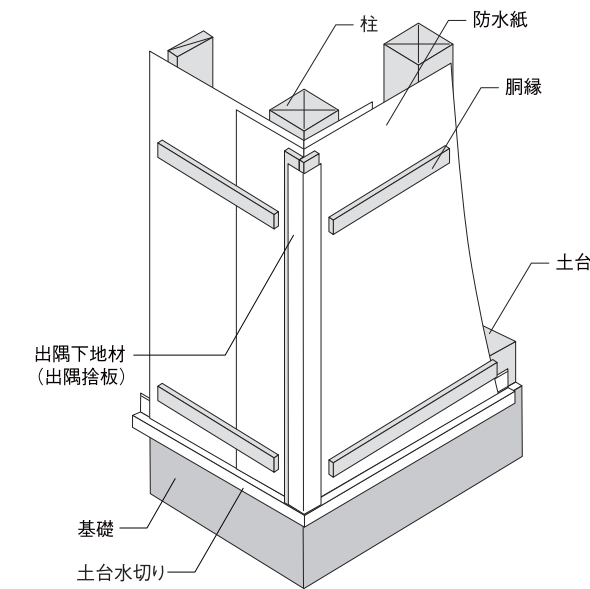
■基準墨を決めて、本体の働き幅で両サイド同じチリになるように割付けてください。



5. 出隅用捨板・入隅用捨板の取付け

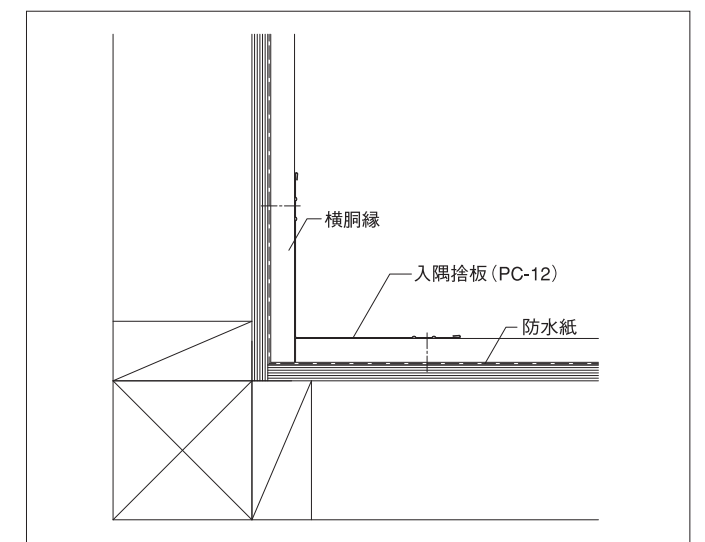
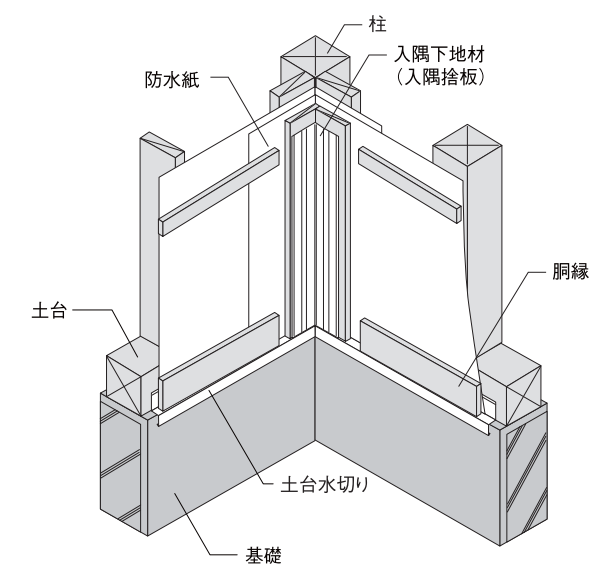
■出隅の施工手順は以下のようになります。

土台水切→防水紙→出隅下地材 (出隅捨板)→スターター (パルディー・セルディー)→本体の施工→出隅上部材 (出隅カバー・キャップ)



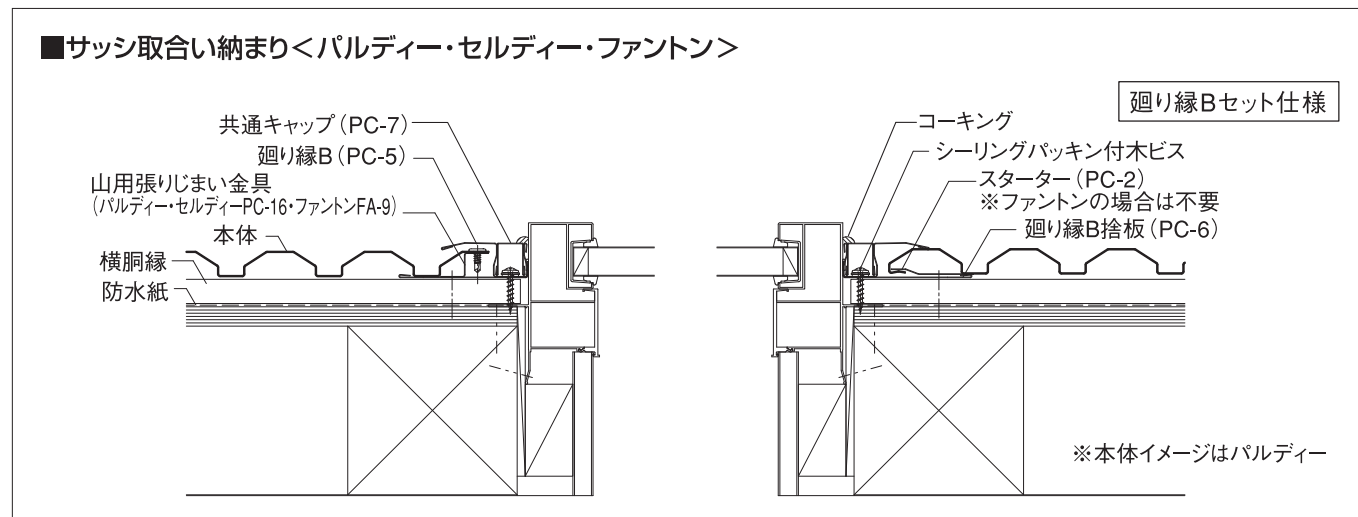
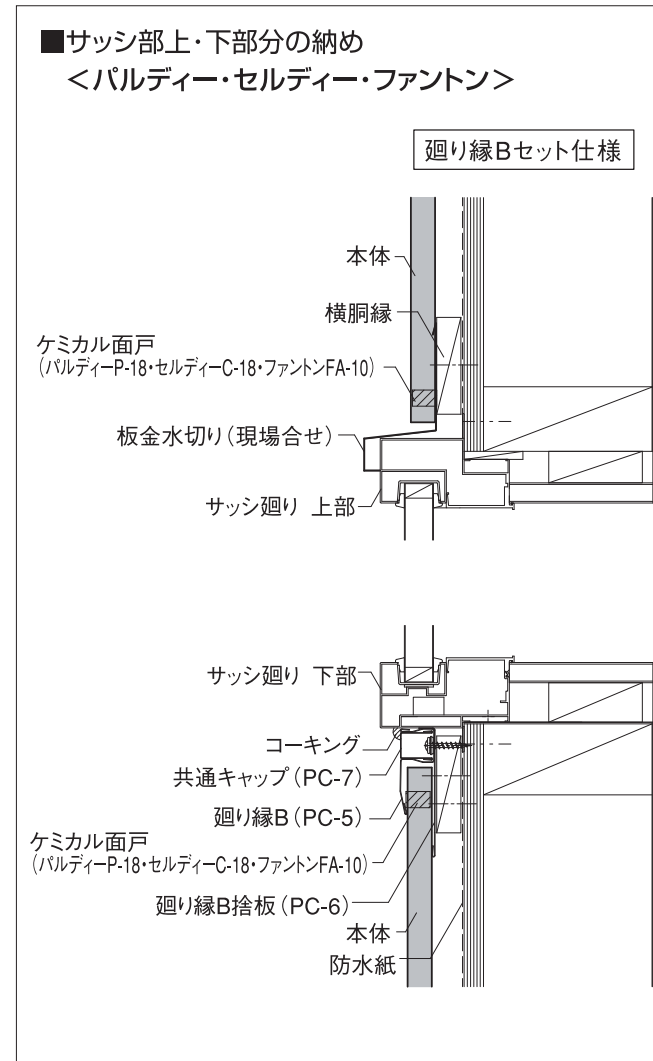
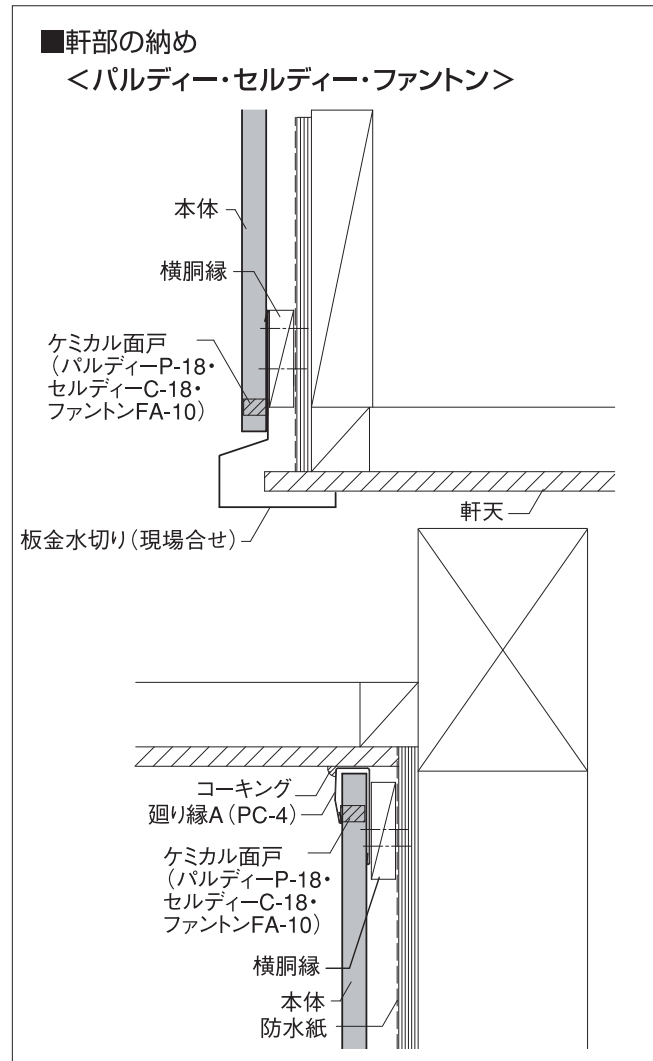
■入隅の施工手順は以下のようになります。

土台水切→防水紙→入隅下地材 (入隅捨板)



6. 軒部・サッシ廻り部分の納まり

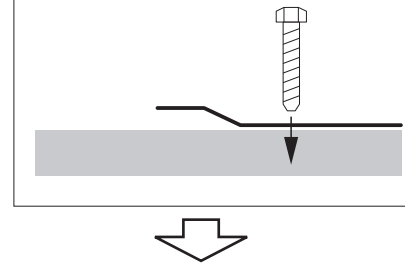
- 軒部の納まりは、廻り縁Bを使用します。
- 手順は、廻り縁B用捨板→本体施工→廻り縁カバー→キャップ



- 窓廻り(開口部回りや換気口回りを含め)の納めには、雨仕舞に万全の注意が必要です。予め防水テープ(両面接着)を貼った後に防水紙を張ってください。またサッシと部材の隙間等には、必ずシーリングしてください。

7. 本体の施工

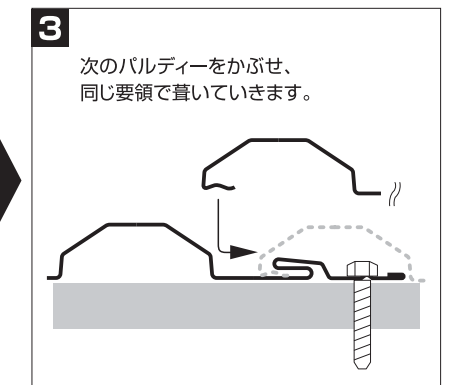
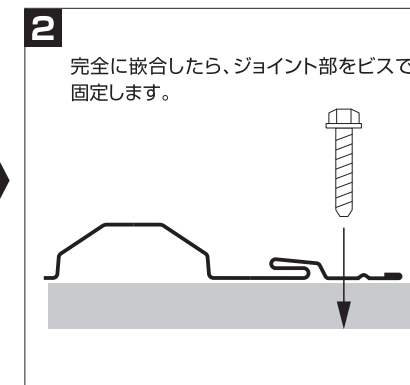
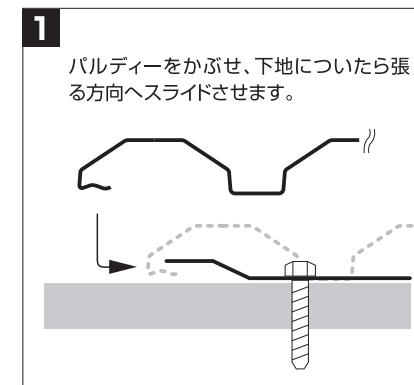
葺き始めはスターターを取り付けます。
(パルディー・セルディー共通)



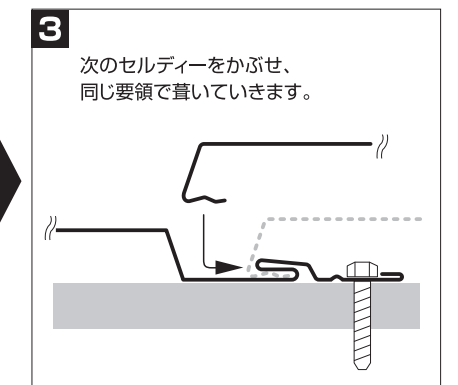
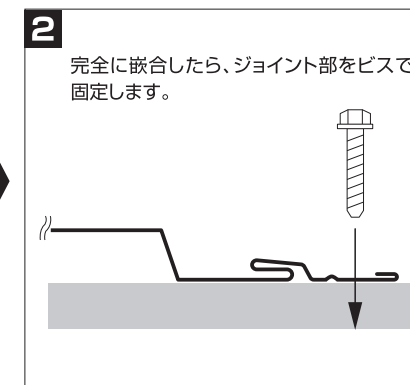
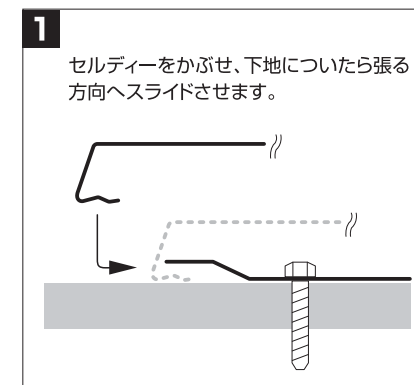
- 本体の施工は墨出しにしたがって張っていきます。
- 各役物の捨板部材を取付け後、スターターを取付けます。
- スターターは水準器などを用い、水平を確認してください。
- ファントンは、張り始めをビスで固定します。

- 1 本体をスターターに嵌合します。
 - 2 本体が完全に嵌合したら、ジョイント部をビスで固定します。
 - 3 2段目以降は本体の勘合部に引掛けビス留めしていきます。
- ※本体左右端部には、必ずケミカル面戸を取付けてください。

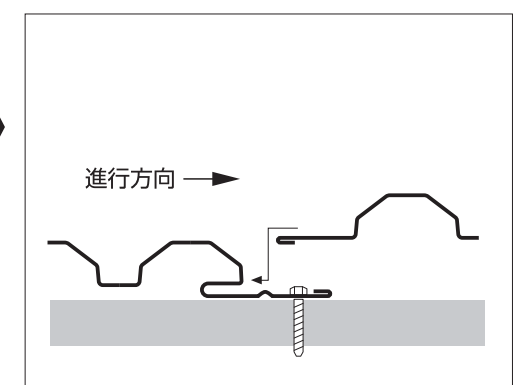
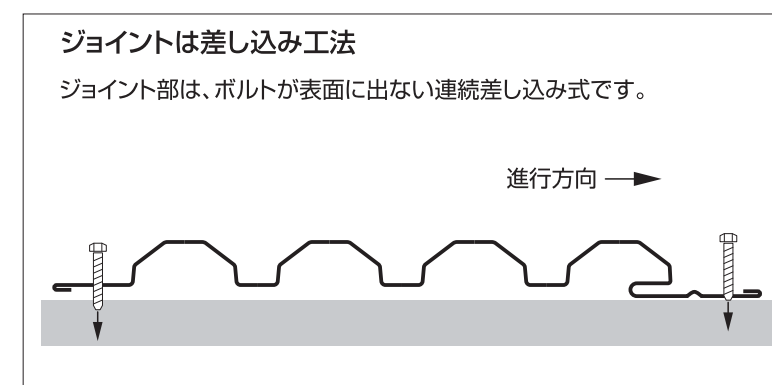
●パルディー本体施工手順



●セルディー本体施工手順



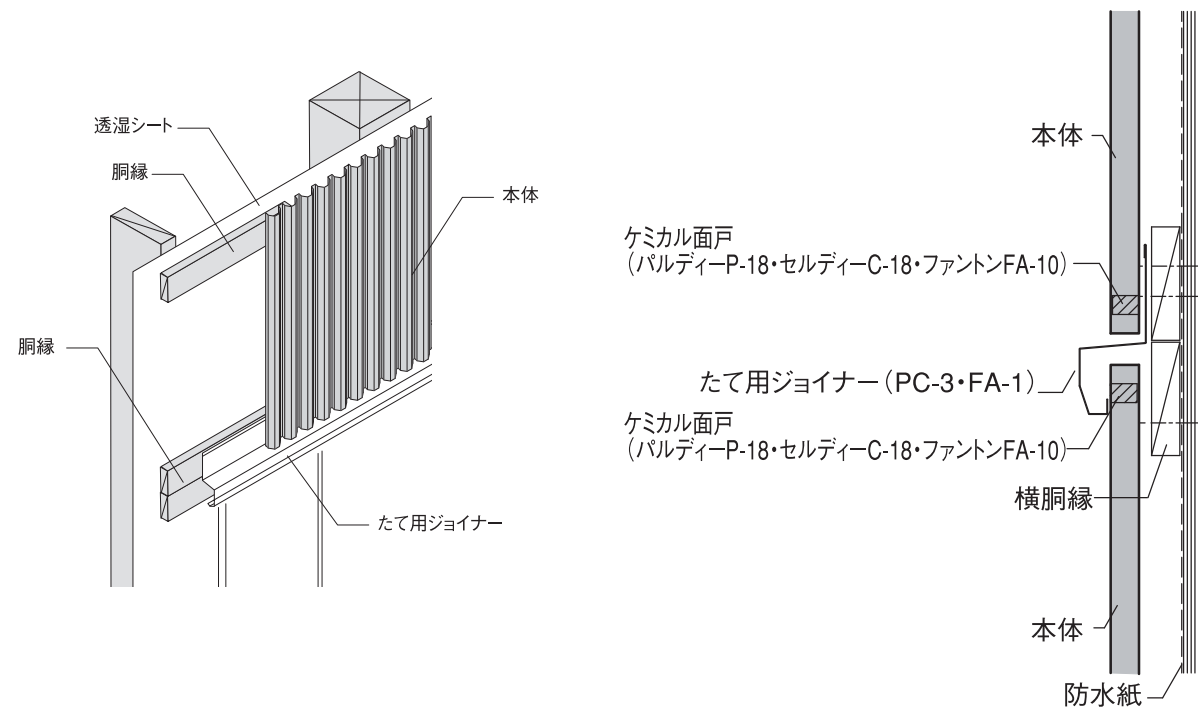
●ファントン本体施工手順



パルディー・セルディー・ファントン改修IC推奨工法手順 (ICワイルキャッチを使用) 縦・横張り

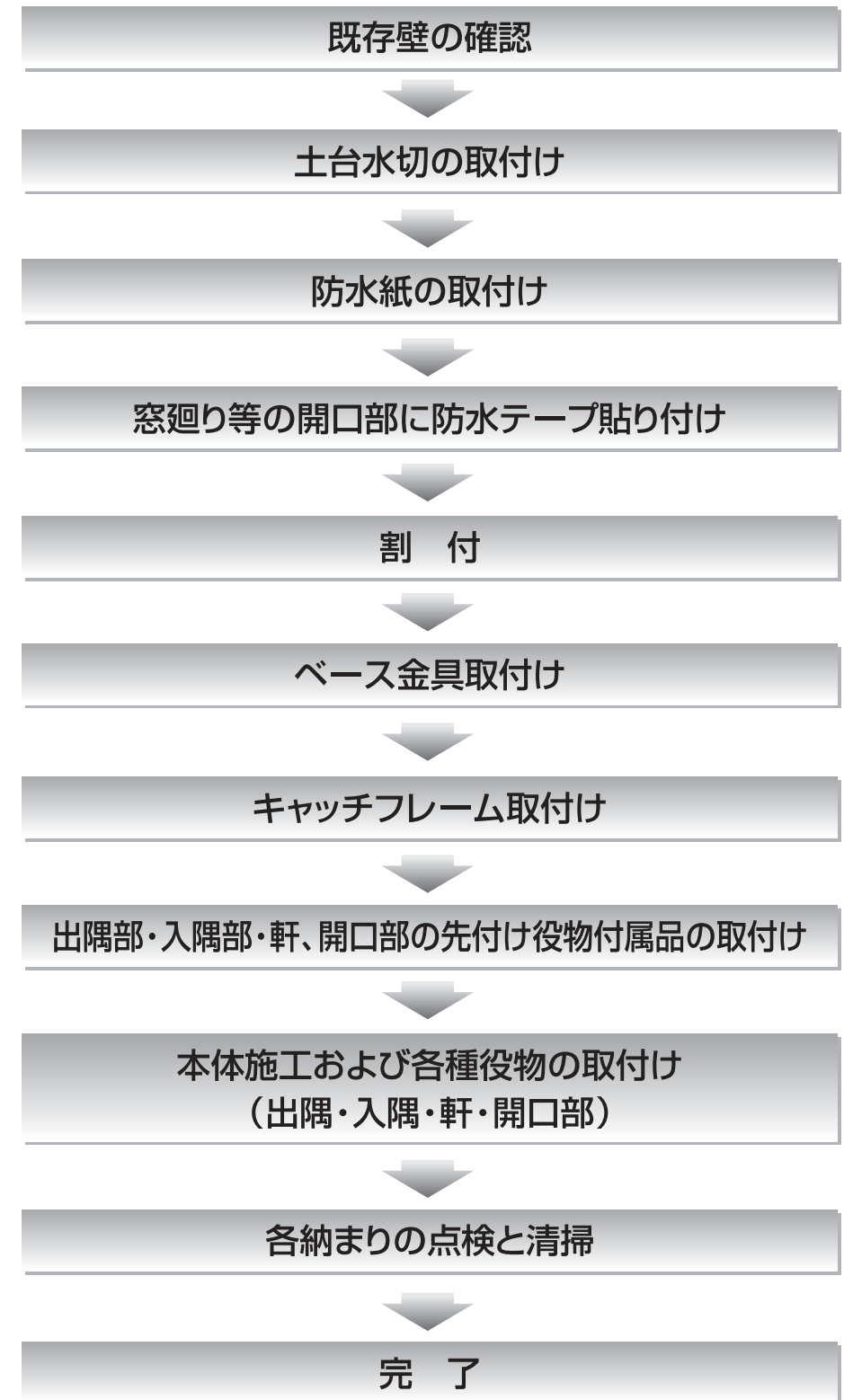
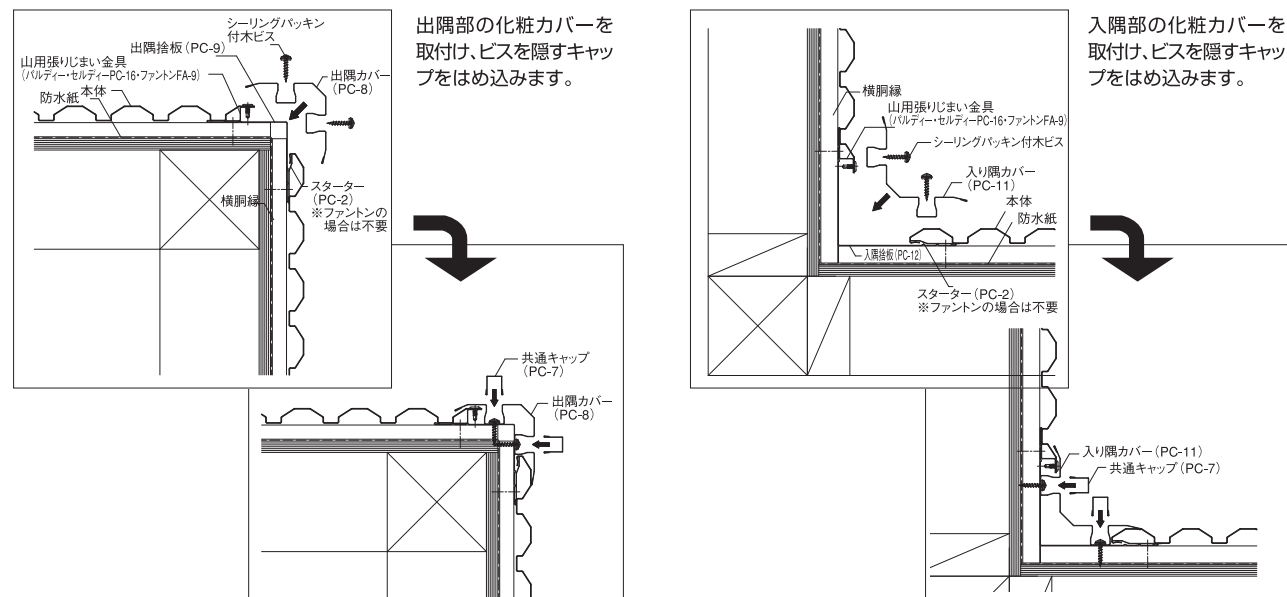
8. 中間水切

■縦継ぎ部分の納めは、中間水切(たて用ジョイナー)を使用してください。
またその場合の胴縁は、倍幅または2本並べて使用してください。



10. 役物部の化粧カバーキャップの取付け

■本体を取付け後、出隅・入隅・廻り縁Bの化粧カバーとキャップを取付けします。



改修工法 (ICワイルキャッチフレーム工法)

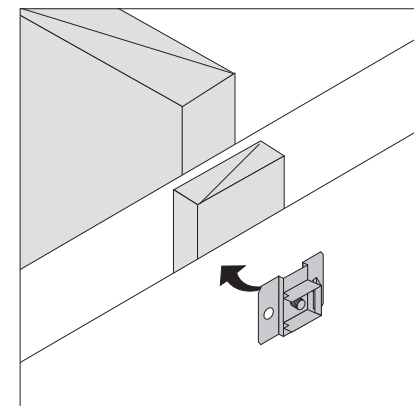


さまざまな壁面の改修に対応した、溶接不要の万能嵌合システム金具。

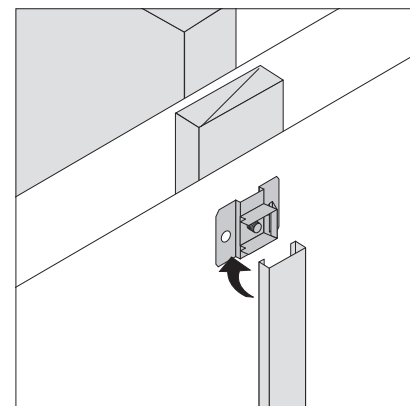
ICワイルキャッチフレーム工法は、劣化したRC・ALC下地、サイディングやモルタル・タイルなど、さまざまな既存壁面の上に素早く、簡単に下地を取付け、美しく経済的な改修を可能にする母屋・胴縁「嵌合フレーム工法」です。



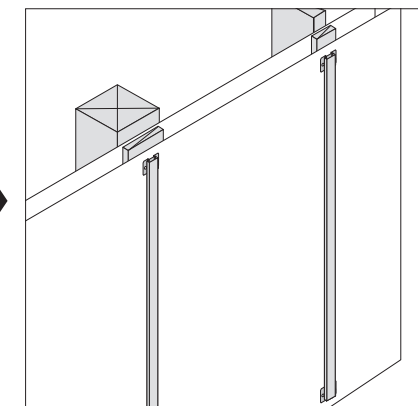
1. 万能嵌合金具の固定



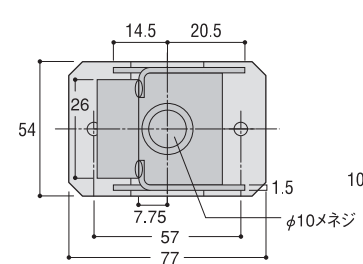
2. ワンタッチ嵌合



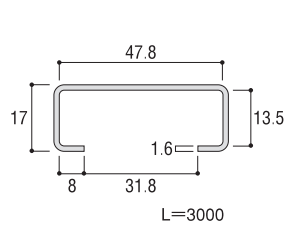
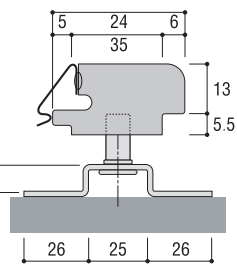
3. キャッチフレーム完成



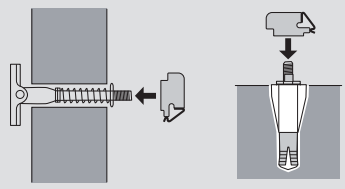
万能嵌合金具 (MP-10) + ベース金具



キャッチフレーム



万能嵌合金具 (MP-10) は、単体でALC・RC造のアンカーに取付けて、多様な用途に活用できます。



※使用に当たっては各メーカーの標準施工に準じてください。

■引張り強度試験に基づく試験結果

鋼板に対する引き抜き強度		(単位: N)			
材質	SWCH18A	SUS 410			
呼び径	5	6	5	6	
鋼板厚	1.6t	2400	3000	2400	3000
	2.3t	4000	4900	4000	4900

ねじの強度 (せん断)		(単位: N)			
材質	SWCH18A	SUS 410			
呼び径	5	6	5	6	
強度	8700	14900	8800	17700	

■ICワイルキャッチフレーム工法 施工手順(1~6)

1 既存壁の確認

2 土台水切り取り付け



3 防水紙の取付け



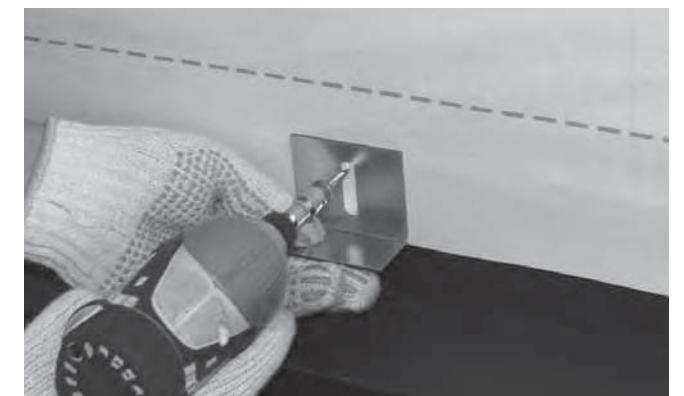
4 窓廻り等の開口部に防水テープ貼り付け



防水紙を外壁全面に貼った模様

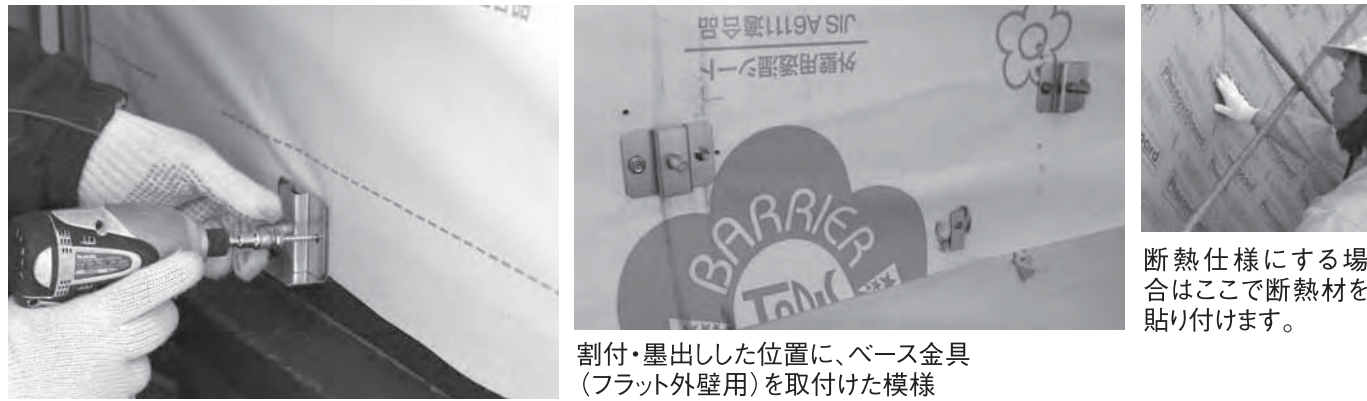
5 割付

6 土台フレームストッパーの取付け



■ICワイルキャッチフレーム工法 施工手順(7~15)

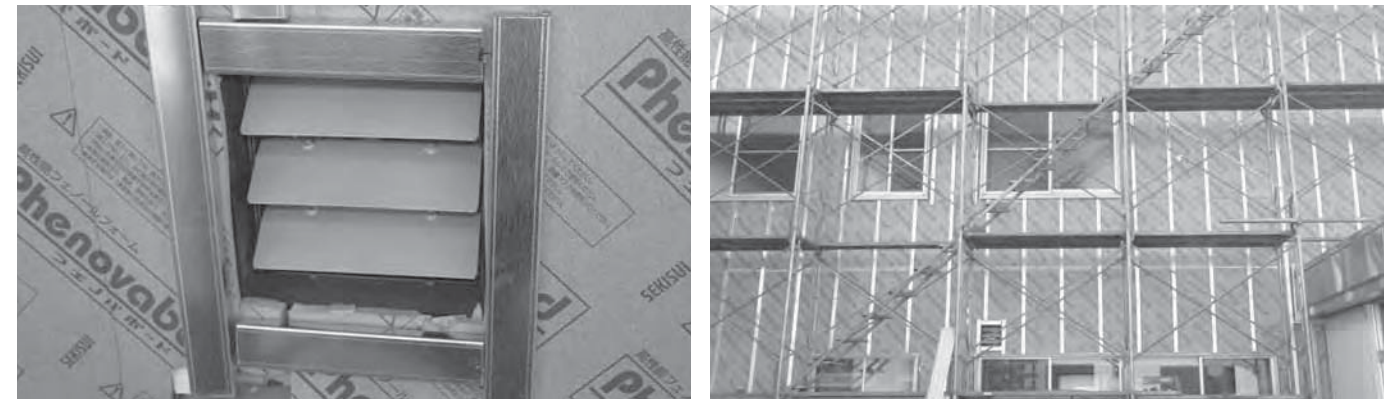
7 土台フレームストッパーの上部にベース金具(フラット外壁用)を取付け



割付・墨出した位置に、ベース金具(フラット外壁用)を取付けた模様

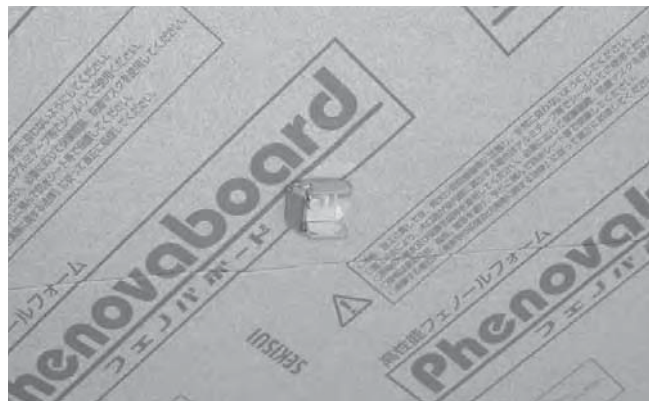
断熱仕様にする場合はここで断熱材を貼り付けます。

11 開口部のフレーム取付け模様



フレームを縦方向に500mmピッチに取付けた模様

8 万能嵌合金具の取付け



9 キャッチフレームの取付け



12 出隅部・入隅部・軒・開口部の先付け役物付属品の取付け



13 本体施工および各種役物の取付け(出隅・入隅・軒・開口)



10 フレーム継ぎ部を専用ジョイントにて繋ぐ



フレームに中間ストッパーの取付け

14 各納まりの点検と清掃



15 完了



■防火構造

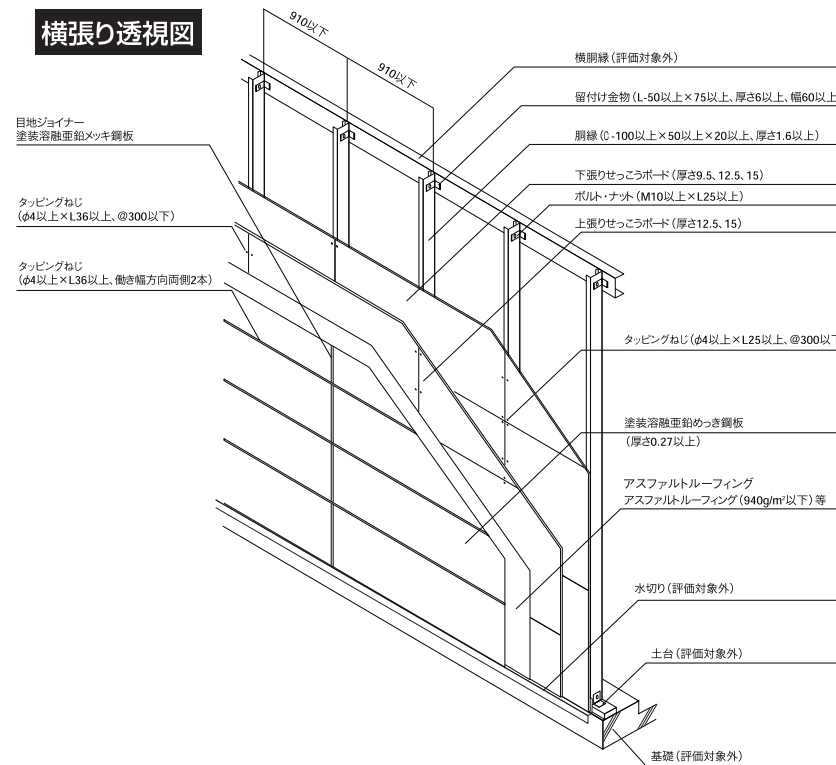
●認定番号:PC030NE-0090

●認定をした構造方法又は建築材料の名称

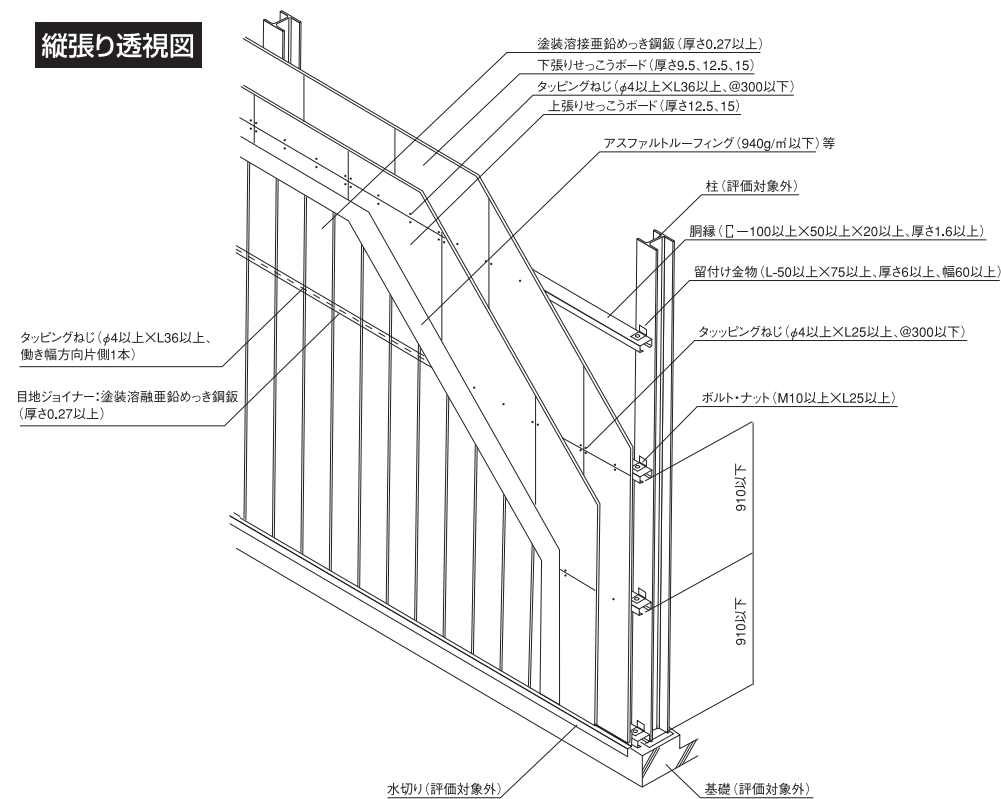
塗装溶融亜鉛めっき鋼板・せっこうボード重張／軽量鉄骨下地外壁

●適用形状:パルディー・セルディー・ファントン

横張りの透視図



縦張りの透視図



■耐風圧性能試験

試験場所	(財)ベターリビング	
商品名	パルディー	
厚さ	0.4mm	
有効幅	303mm	
試験体方法	W 2,120mm×H 2,120mm	
年月日	平成18年2月	
試験方法	動風圧試験装置	
試験負荷	正圧	最大6000Pa
	負圧	最大10000Pa
試験結果	正圧	3527Pa以降試験不能。
	負圧	3527Paにてパネル勘合部が外れた。

※試験結果の正圧はパネル勘合部が3527Paで外れてしまった為続行不可能となった。

試験場所	(財)ベターリビング	
商品名	ファントン	
厚さ	0.4mm	
有効幅	130mm	
試験体方法	W 2,120mm×H 2,120mm	
年月日	平成17年12月	
試験方法	動風圧試験装置	
試験負荷	正圧	最大6000Pa
	負圧	最大10000Pa
試験結果	正圧	2970Pa以降試験不能。
	負圧	2970Paにてパネル勘合部が外れた。

※試験結果の正圧はパネル勘合部が2970Paで外れてしまった為続行不可能となった。

●試験装置

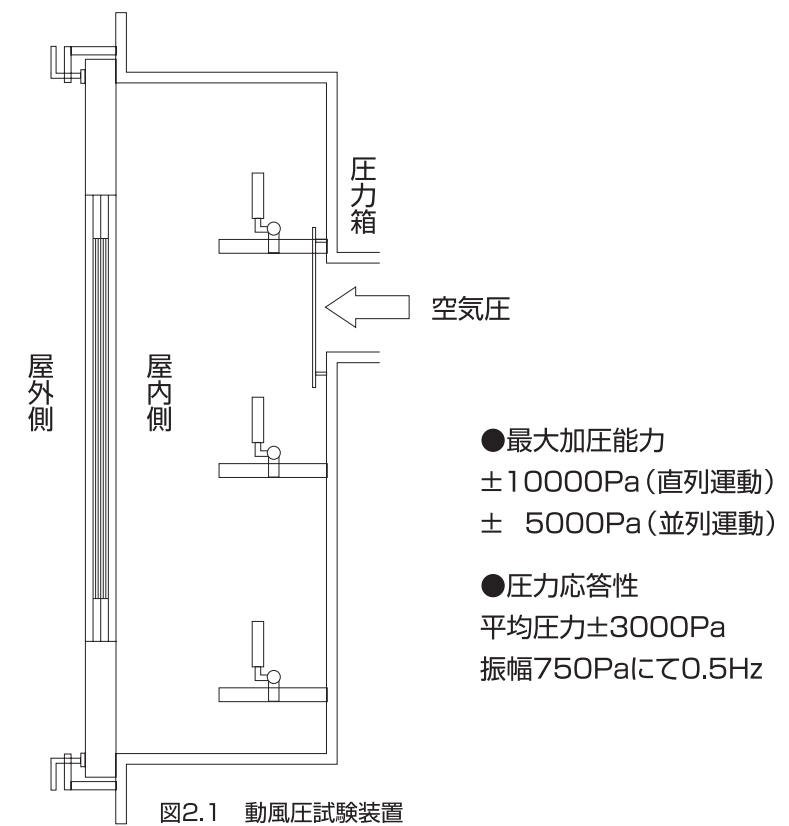


図2.1 動風圧試験装置